

〔遺伝資源の収集・評価・保存〕  
アサガオ「団十郎」の短日処理技術の確立

上原恵美  
(江戸川分場)

---

【要約】「団十郎」を入谷朝顔市で適期開花させるために短日処理する場合は、出荷4週間前に2日間程度実施する。

---

【目的】

昨年までの試験で、アサガオ「団十郎」の短日処理は4週間前の実施でよいことが明らかになった。しかし、最適な処理期間は明らかになっていない。そこで本試験では、年次による天候の変動も考慮に入れ、昨年度の追試と最適処理期間について明らかにする。

【方法】

供試品種：「団十郎，暁の露（対照）」、2014年4月25日に200穴セルトレイに播種。5月7日に6寸深鉢へ1株/鉢で定植した。鉢用土は、江戸川分場標準用土（赤土：腐葉土：ピートモス＝3：1：1（容積比））を使用した。基肥として化成肥料（マグアンプK中粒） $5\text{ kg/m}^3$ 、過リン酸石灰 $3\text{ kg/m}^3$ を施用した。追肥は随時、液肥（ハイポネックス15-30-15、1000倍）を施用した。短日処理は、暗幕操作による16:30～8:30（暗期16時間）のシェードを処理時期と期間の異なる6区（表1）を設けた。なお、主茎誘引の行灯仕立てとし、つる巻きと側枝摘除は適宜行った。

【成果の概要】

1. 初蕾着生節位は、「暁の露」では各試験区でほとんど変化なかったが、「団十郎」は、5週間前でそれぞれ処理期間を長くすると節位が低くなる傾向にあった。初花平均開花日は、「暁の露」では各試験区であまり変化がみられなかったが、「団十郎」は処理期間を長くすると開花日が早くなる傾向にあった（図1）。
2. 主茎先端着花蕾株（芯止まり株）の発生は、「暁の露」では5週間前3日間と4週間前2、3日間でみられた。「団十郎」では、5週間前1日間処理を除いてすべての処理区で発生したが、特に5、4週間前の3日間処理は高い割合で発生した（図2）
3. 節数と主茎長は「暁の露」では5週間前3日間の処理が最も節数、主茎長が短くなった。「団十郎」は処理期間が長くなる方が節数、主茎長が短くなる傾向にあった（図3）。
4. 「暁の露」の開花開始から朝顔市までの開花数は、5週間前3日間の処理がやや多くなったが、処理区間で開花数に大きな差はなかった（図4）。
5. 「団十郎」の開花開始から朝顔市までの開花数は、処理期間が長くなるほど開花数は有意に多く、特に朝顔市4、5週間前の2、3日間処理は、朝顔市開催期間（7月6～8日）に開花数が多くなった（図5）。
6. まとめ：「団十郎」は、4、5週間前の3日間の処理では、処理効果が高く主茎先端着花蕾の発生も高くなる。4週間前の2日間の処理では主茎先端着蕾がやや発生するが、実際的には問題はなく、初花開花日が早くなり、節数、主茎長も短いため最適であると考えられる。今年の栽培では5週間前2日間の処理でもほぼ同等の効果が得られた。

表1 短日処理区の設定

処理区	実施期間	シェード開始前本葉枚数	
		団十郎	暁の露
5週間前	1日間	5/29~5/30	
	2日間	5/29~5/31	7.7
	3日間	5/29~6/1	
4週間前	1日間	6/5~6/6	
	2日間	6/5~6/7	15.1
	3日間	6/5~6/8	16.4

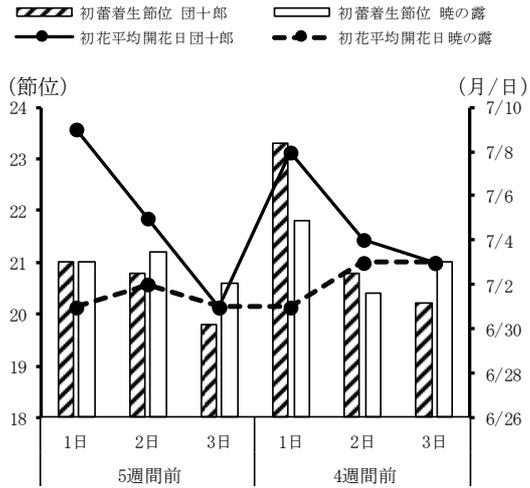


図1 初花着生節位と初花平均開花日

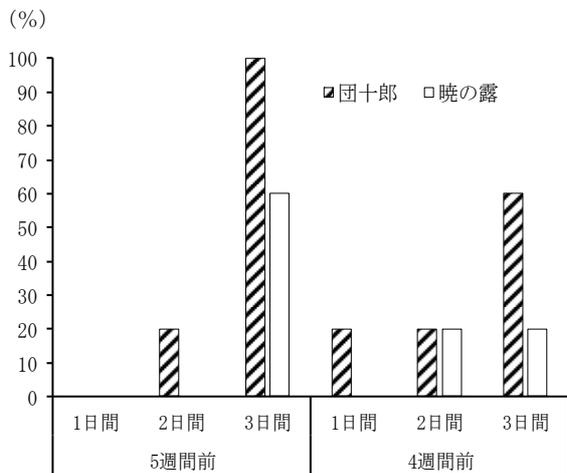


図2 主茎先端着花蕾株の発生率

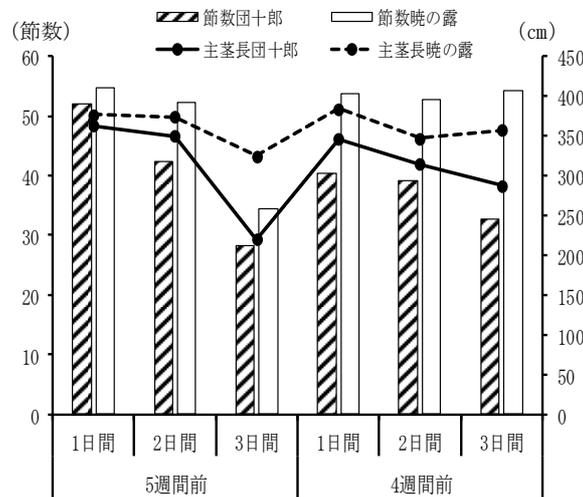
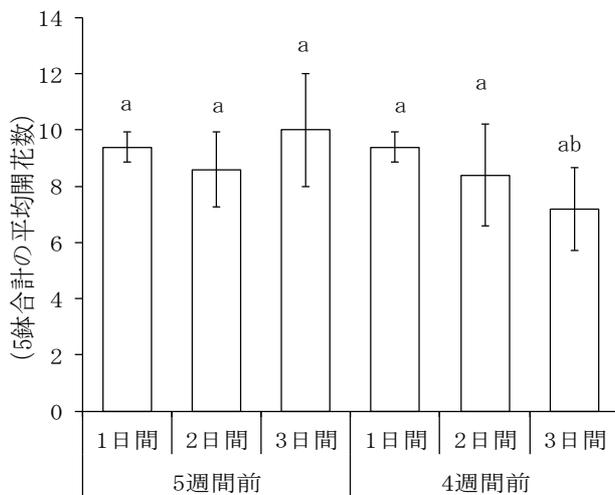
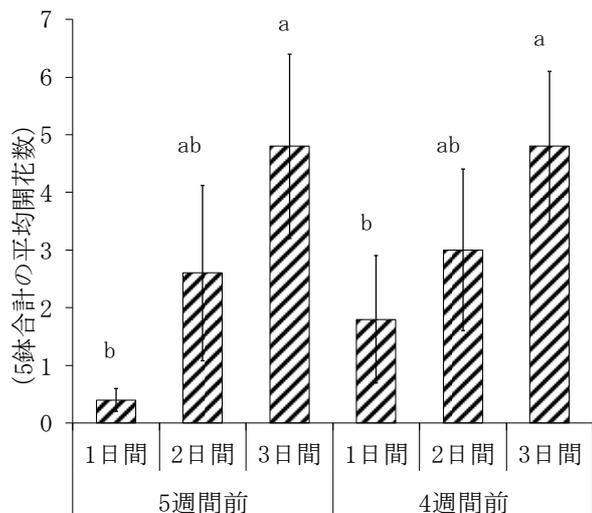


図3 短日処理期間が節数および主茎長に及ぼす影響



Tukey法により異なる符号には5%水準で有意差がある。

図4 暁の露の開花開始から朝顔市までの合計平均開花数



Tukey法により異なる符号には5%水準で有意差がある。

図5 団十郎の開花開始から朝顔市までの累積開花数